

平成 21 年度プリムラ利用状況 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

平成 21 年度プリムラ利用状況													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開設日	21	18	22	22	16	19	21	19	19	19	19	22	233
補助	76	52	88	80	68	54	71	71	76	73	91	84	884
自主	1	1	1	5	0	5	1	0	0	0	0	5	19
合計	77	53	89	85	68	59	72	71	76	73	91	89	903

4 月 5 歳以上のインフルエンザ B 型と 0、1 歳の発熱が半数以上あり、ロタウィルスによる胃腸炎も次いで多くみられました。保育園の新入園児は 0、1 歳が多く、慣れない保育園で疲れ風邪をもらい、鼻水、咳でも登園して、とうとう発熱、下痢でプリムラを利用しています。小学生のインフルエンザ B 型も多く隔離室は使用が多かったです。0 歳 1 歳児のは殆ど 1 対 1 保育で抱っこ抱っこのことが多くプリムラでは甘えん坊になっています。

5 月 連休で少し家庭でゆっくり過ごし休養をとったのでしょうか、保育園にも慣れたのでしょうか、0、1 歳児の利用は少なくなっています。年長児は時々熱がなく、なんとなく腹痛がありプリムラを利用していますが、プリムラでは元気で過ごして帰っていきます。

5 月のあじさい



6 月 第 2 週から 0、1 歳児の発熱が半数以上でした。定員 6 名が 0、1 才だけだと大変です。慣れなくて抱っこ、抱っこで遊び始めても時々お母さんを思い出すのか「ママママ」でした。お昼寝も時間がまちまちでせっかく寝たのに他の子の泣き声で起きる子もいます。胃腸炎、喘息性気管支炎、溶蓮菌感染、アデノウィルス感染症も比較的多く水痘も 1 名いました。

7 月 6 月同様 0～2 歳が多く発熱、咳、鼻水が殆どです。溶蓮菌感染症数名、胃腸炎は減少して 1 名でした。相変わらず当日キャンセルが多く、前日定員 6 名でも翌日朝には全員キャンセルの事もあります。前日「とりあえず予約」が多い状況です。当日の予約は朝 8 時からです。少し遅れて出勤が可能なら諦めないで電話をしてみてください。全国病時保育研究大会が 7 月 25 日、26 日

に千葉でありました。プリムラ保育士も参加しました。全国の病児施設のスタッフが一同に集まり病児保育の研修会です。講演、ポスター発表から他の施設の熱意を感じ、日々の悩みや喜びを共感しました。プリムラは今年開設6年目を迎え、更により良い安心、安全な看護、保育を旨として一貫した理念の基に「プリムラ病時保育憲章」を作成しました。

7月 夏ひまわり



7月 夏船遊び



8月 夏季休暇があり開設日は16日でした。昨年より多く述べ68人の利用がありました。4歳児の利用が最も多く20人、次いで2歳児の14人でした。疾患別では上気道炎が21人、喉頭炎の13人です。発熱、咳、鼻水の上気道炎症状が殆どです。この時期例年には見られないインフルエンザA型(1名)で3日間の利用がありました。症状は比較的軽く、数日で快癒し兄弟家族の感染はありませんでした。プリムラの平成18年度から20年度までの3年間の全利用者2139人について、全利用者 および年齢別の疾患分布、主要疾患の月別推移などを取りまとめ、調査・分析しました。その結果、1) 各年齢別の主要疾患と特徴的な疾患、2) 季節性のある疾患と季節性があまりない疾患などが明らかになりました。今年度のデータも加えて分析を行なっています。

9月 シルバーウィークのため開設日は19日でした。例年9月は利用者がやや減る傾向がありますが、延べ59人の利用がありました。1歳と2歳の利用は28人にのぼり、低年齢児が多数を占めました。疾患別では相変わらず上気道炎が21人と多く次いで、流行性耳下腺炎での利用が20人でした。プリムラでは感染症は入り口を分けて、隔離室での保育を行い、他の病児への2次感染を防止することに努めています。今月はインフルエンザでの利用はありませんでしたが、最寄りの保育園、小学校ではインフルエンザの発症が増えています。インフルエンザの場合は抗インフルエンザ薬を内服して発熱がなくなればプリムラの利用は可能です。前日、当日予約されていても、発熱があり当日の朝入室時にインフルエンザと診断した場合はお預かりは出来ません。これからインフルエンザの予防接種が開始されますが、インフルエンザワクチンは是非接種しておいて下さい。

10月 例年10月から利用が増える傾向があり、延べ72人の利用がありました。4歳児が21名と最も多く、次いで1歳児の15名でした。疾患別では上気道炎が16名、インフルエンザA型が12名でした。インフルエンザ様症状を合わせると18名になりました。インフルエンザA型は10月の後半から増加傾向で、3歳児から5歳児が14名と大半を占めます。7名は前日予約していても当日入室時にインフルエンザ検査で陽性になりその日のご利用はお断りしました。先月報告しましたように、“抗インフルエンザ薬を服用し解熱”していればお預かりしています。殆どはタミフルを3日飲んでからの利用になっています。タミフルを5日間内服していても咳がひどい場合は登園はもう1日延期しています。タミフルを飲みきらないでも解熱後2日経てば従来の学校保険法の登園基準は満たしますが、今回の新型インフルエンザに関しては厚生労働省からの基準は発熱後少なくとも7日間は登園は控えるように言われています。インフルエンザに罹患したら十分な休養が必要です。11月から新型インフルエンザワクチンの予防接種が開始しています。季節型も合わせて是非早めに接種を受けて下さい。

11月 は延べ71人の利用があり3歳児19人、1歳児11人、4歳児11人で、9歳児は1名でした。疾患別ではインフルエンザA型が延べ38名と多く、上気道炎の9名、喘息様気管支炎の8名で呼吸器系の疾患が大半でした。インフルエンザA型の年齢分布は3歳が延べ14名、2歳5人、4歳4人で、比較的低年齢の児童が多い傾向でした。インフルエンザA型に罹患しプリムラを利用した児童の総数は21名ですが、利用日数でみると“1日、8名、2日、8名、3日、2人、4日、2人、5日、1人”であり、プリムラ利用は1日から2日の利用で週末をはさみ、あるいは家庭で経過をみて登園、登校している児童が大半でした。4日、あるいは5日続けて利用した児童は、週の初めからの利用や、咳や鼻水長引いた為ですが、熱が再び上がったことは殆どありませんでした。解熱後の経過は比較的良好でプリムラでお預かりしている要件、“抗インフルエンザ薬を服用し解熱していること”、が妥当であったように感じています。11月から新型インフルエンザワクチンの予防接種を開始しており、接種する児童も増えています。今後季節型の流行も予測されますので、合わせて是非早めにワクチン接種を受けて下さい。

12月 は昨年より多く、延べ76人の利用がありました。2歳児19人、1歳児18人、4歳児8人でした。疾患別では上気道炎が19名と、次いでインフルエンザA型と胃腸炎がそれぞれ14名でした。喘息様気管支炎も11名でした。発熱、咳、鼻水の呼吸器系の疾患が増えています。また溶連菌感染症も8名でした。先月多かったインフルエンザA型は14名に減少しています。国立感染症研究所のレポートでは定点当たりのインフルエンザ報告数は12月になって激減しているようで、プリムラの利用者数も、その傾向が一致していました。吐き気、下痢の胃腸炎は例年では季節性インフルエンザの前に流行していましたが、今年はインフルエンザA型が少なくなり、逆に胃腸炎が増える傾向になりました。今年の胃腸炎が例年より少ないのはインフルエンザ対策で手洗い、うがいの励行が原因との見方もあ

ります。混雑する場所ではマスクをして帰宅後はうがい、手洗い続けましょう。プリムラでは胃腸炎の初日の吐き気が強い時期は利用をお断りしています。

1月 プリムラは新年4日から開いていました。休み明けの利用者はとても少なく、保育園に通い始めた中旬以降は利用者が増えました。年齢別では2歳児が24人、3歳児が23人、3歳児が8名でした。症状別では発熱、鼻水、咳の上気道炎が31名（約42%）、嘔吐、下痢の胃腸炎が20名（約27%）でした。喘息様気管支炎は9名（約12%）で、相変わらず呼吸器系の疾患の割合が60%近くに達しました。昨年11月頃から例年に比べ胃腸炎の発症が少なく、インフルエンザA型が多い状況でしたが、1月になりインフルエンザはパラパラと少なくなり、下痢や嘔吐を伴う胃腸炎が増えてきています。11月に発症のピークがあったインフルエンザA型も今月は2名でした。新型と思われるインフルエンザA型は減少していますが、新型インフルエンザワクチン接種が済んでいない乳幼児はこれからでも遅くないので是非ワクチンを接種しておいてください。生後6ヶ月から接種出来ます。新型インフルエンザは昨年の春から夏にも発症しています。インフルエンザは多分1年を通じての疾患になりつつあります。従来の季節型インフルエンザは低温低湿度の季節に流行のピークがありましたが、近年夏の沖縄でのインフルエンザ発生があり高温高湿度でも流行があります。インフルエンザウィルスも気候に合わせて変異しています。また抗インフルエンザ薬にも耐性が出来てきます。感染して重症化を免れるためにもインフルエンザのワクチンは有効です。

2月 今月の利用者数は91名で、今年度最多になりました。年齢別では1歳児が23名、2歳児が16名、ついで4歳児、5歳児の15名でした。発熱、咳、鼻水の症状を伴う上気道炎が24名（約26%）と最も多く、次いで流行性耳下腺炎の20名（約22%）、嘔吐、下痢を伴う胃腸炎の17名（約19%）と続きました。咽頭炎、扁桃腺炎、喘息様気管支炎を合計すると22名(24名)となり、相変わらず上気道炎を含めた呼吸器系の疾患は46名(約51%)でした。インフルエンザA型での利用者は“0”でした。昨年10月頃から近隣の保育園で流行性耳下腺炎の流行があり、今月は利用者が急増しました。流行性耳下腺炎（ムンプス）ワクチンを接種していても罹患することがありますが、ワクチンを接種していると明らかに症状はかなり軽くなります。是非ムンプスのワクチン接種をお勧めします。プリムラのムンプスでの利用は過去3年間では3月から4月頃から増える傾向でしたが、今年は1ヶ月早く流行が出ています。耳下部の腫脹が軽減するまで登園できないため、他の疾病に比べて病児保育室での看護・保育期間が長くなります。子供たちは解熱して耳下部の腫脹はあっても痛みが少なくなり元気になると、保育室での1日は退屈になります。プリムラでは安静を保ちつつ、1日を飽きないように色々の遊びや折り紙、塗り絵、工作、女の子は編み物など心身の状況に対応した細やかな保育に心がけています。

3月 今月の利用者数は延べ89名でした。年齢別では1歳児26名、2歳児20名、3、4歳児の17名でした。疾患別では嘔吐、下痢を伴う胃腸炎が最22名(約25%)、発熱、咳、鼻水の症状を伴う上気道炎18名(約20%)、水痘が4名(約16%)です。先月20名の流行性耳下腺炎は8名に減少しました。上気道炎、咽頭炎、扁桃腺炎、喘息様気管支炎を含めた呼吸器系の疾患を合計すると33名(約37%)になり、先月の疾患数46名(約51%)と比較するとかなり減少しています。平成21年度の延べ利用者数は昨年より大幅に増え903名でした。年齢別では1歳児の243名(約27%)、2歳児の160名(約18%)、3,4歳児(約17%)となります。疾患別では発熱を伴う上気道炎299名(約33%)、胃腸炎106名(約12%)、インフルエンザA型77名(疑い9名を含む)(約9%)となりました。これらの上位3疾患で全体の54%にも達します。これまでの3年間の集計と比較すると4位に入っていたインフルエンザA型が3位になっており、昨秋から冬にかけての新型インフルエンザの流行の影響がありました。今後主要疾患の月別推移なども整理する予定です。プリムラでは昼のお食事前に図書館で借りてきた紙芝居をしています。異年齢の子供達なので全員に合う紙芝居は選べませんが1,2歳でも解らないなりに静かに聞いています。3月でプリムラは開設以来丸6年が経ちました。開設当時0歳でプリムラを利用していた子供たちは今年4月から小学生になります。「小学校に入学してもプリムラに来て良いのよ」と言う少し恥ずかしそうにニコッとします。今年度のご協力有難うございました。来年度もよろしくお願い致します。